



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山田 美鈴

令和7年1月10日

第9号

ロボットとの共同生活



校長 山田 美鈴

新たな年が始まりすでに1週間が経過しました。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と昔からよく言われてきましたが、学校においてもこの3学期は何かと気ぜわしくあっという間に過ぎていきます。だからこそ一瞬一瞬を大切に、二度とない中学校生活の貴重な時間を、生徒とともに刻んでまいります。保護者の皆様、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

1年前の元旦は各地で新年のお祝いをしている最中、夕刻に能登半島で巨大地震が起きました。また9月には同被災地に豪雨による土砂災害が重なり、未だ新年を心から祝うことのできない方々もいらっしやいます。被災地の皆様の一日も早い復興を、心より祈念いたします。

さて日本のアニメは世界的に圧倒的人気を集めていますが、その中でも代表的なものに「ドラえもん」があります。「ドラえもん」は1969年に藤子不二雄さんという日本の漫画家が原作者となって登場し始めたSF漫画です。テレビアニメとしては1973年から放送開始され、50年以上経過する今もなお放送され続けています。作品は人間が猫型ロボット（ドラえもん）と生活を共にすることで、人間の感情表現をロボットを通して描き出すストーリーで出来上がっており、現実と夢のギャップに苛まれるジレンマをみごとに表していると言えます。子供だけでなく大人の我々も共感させられることが多く、ロボットの成せる技とは理解しているものの、時代の変化とともに考えさせられる場面が、誰も記憶に残っているのではないのでしょうか。

作者が描いてきたドラえもんとのび太のような人間とロボットの共同生活は、実は年々現実のものとなってきています。某大学の研究室では次世代ロボットの研究を重ね“人間一人にロボット一台”というコンセプトで今年4月に開催予定の大阪・関西万博でスマートロボットを披露するようです。このロボットの頭脳にはAI（人工知能）が搭載されており、人間がロボットの手や腕を遠隔操作することで、様々なスキルを習得しています。高齢化社会で介護してくれるのは人間ではなくロボット。体を寝かせたり起こしたり、トイレに連れていったり、掃除もしてくれたり。調理においては火加減まで人間の思い通りに上げることが可能になります。対人間だと「焦げたものなど食べられない」と文句の一つも言いたくなるのを、ロボットの調理だと思いの通り。口喧嘩も減るということになるのでしょうか。10年先には人の指示を受けて家事のみならず健康管理もすべてロボットにお任せ。暴飲暴食になる前にロボットから忠告されるという事態になるかもしれません。いつの間にかロボットに支配される生活がやってきそうです。

私が幼い頃1970年に大阪万博が開催され、携帯電話の原型となるワイヤレスフォンが注目を浴びていましたが、今ではスマートフォンは、一般庶民が必需品として普通に持ち歩くようになりました。偶然にも今年開催されるほぼ同開催地大阪・関西万博でのスマートロボットが、今後の世界を大きく変えていくことになるでしょう。

人間とロボットの共同生活が当たり前になることで、人間の知能をはるかに超え、医療の進歩や暮らしの豊かさ、経済成長という利点に留まらず、真実と虚偽、善と悪の判断を揺さぶられてしまい、人間の分断社会へ進んでしまわぬことを切に望んでいます。（参考：読売新聞1/3号）